

《散文に多くみられる表現技法》

① 比喩（＝喩え。あるものを別のものにたとえる）

① 直喩＝「～ような（に）」「～ごとく（し）」などを使って直接的にたとえる。

（例）彼女は太陽のような人だ。

② 隠喩＝「～ような」を使わずにたとえる。

（例）彼女は太陽だ。

▽ 直喩と隠喩は「ような」があるかないかで識別する。
▽ 「ごとく」「ごとき」「ごとき」「みたいな」があっても直喩と気付かない人が多いので注意する。

③ 擬人法＝人でないものを人に見立てる

（例）空が泣いている。
人でない 人の動作

▽ 動作主が人以外のもの、動作が人の動作のときは擬人法

② 倒置法＝言葉の順序を逆にする

（例）遅れてしまった、学校に。

③ 体言止め＝文・行の終わりを名詞で止める。

（例）空に輝く無数の星。
かがや 格詞

▽ 倒置法と体言止めの違い
倒置法 助詞で終わる
体言止め 名詞で終わる

④ 対句法＝対になる語を同じリズムで並べる。

（例）菜の花や 月は東に 日は西に

▽ 対とはペアという意味。単に対義語を並べるだけでなく、似た調子で同類のものを並べたものも対句になる。

⑤ 反復法＝同じ言葉を二度以上繰り返す。

（例）竹|竹|竹が生え。